

科目「中学音楽」シラバス

1. 中学3年間で教科到達目標

多様な音楽文化の理解を深め、生涯にわたって美に対する憧れの心情を養う。	音楽の幅広い活動を通して、感性を高め、自己表現できる積極的な能力を養う。	基本的な音楽理論を通じ、音楽の仕組みを学ぶとともに、音楽を楽しみ、親しめる心の目を開かせ、仲間と協力して音楽を創り上げる能力を養う。
-------------------------------------	--------------------------------------	--

S：想定以上に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

A：期待通りに該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

B：部分的に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

C：該当の能力の醸成が不十分と判断されるもの

2. 科目の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(教科名) 音楽 (科目) 音楽	1 単位	第3 学年	教科書：中学生の音楽 2・3 下 教育芸術社 大妻指定の音楽ノート ソプラノ・アルトリコーダー
学習の到達目標	歌唱（合唱）、器楽、鑑賞などの音楽活動を通して、音楽に対する総合的な理解を深め、音楽への興味や感心を養う。		
評価の観点	＜知識・技能＞ 楽曲の内容や曲想に関心を持ち、音楽表現や知識・技能を工夫して、主体的に協働的に取り組もうとしている。		
	＜思考力・判断力・表現力＞ 曲想を感じ取って創意工夫を生かし、曲を仕上げるまでの過程と、どのように演奏するかについて、思いや意図を持っている。		
	＜主体性・多様性・協働性＞ 音楽を形作っている要素や曲想を生かした音楽表現をするために、必要な技術や技能を、身に付けている。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出、未実施・・・0%

2. 学習計画及び評価方法等

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学 期	合唱 卒業式の全体合唱 「夢をあきらめないで」 岡村孝子 作詞・作曲 2 部合唱	・発声、呼吸法、強弱などに注意して歌う。 ・合唱祭の導入として、新クラスでのハーモニー作りと卒業式の全体合唱曲として卒業学年としての各人の思いを込めて歌える事を目指す。 ・昨年の合唱祭で練習してきた経験を生かし、主体的な取り組みが出来るようにする。 ・合唱の役割分担 ○昨年の合唱祭での経験を生かし、効果的な練習方法を考えさせる。 ○基本的なポイントを押さえ、2 部合唱のハーモニーの美しさを感じ取る。	・無理のない発声 ・歌う姿勢 ・口の開け方 ・短い時間内で正確なリズムと音を取るための工夫 ・指揮者、伴奏者、パートリーダーの選出
	合奏 グループアンサンブル 「カノン」 パッヘルベル作曲	・グループによる器楽合奏に取り組む。 ・「基本形」 ソプラノリコーダー 2 本 アルトリコーダー 2 本 ・「ヴァリエーション形」 基本形以外の楽器を加えてのヴァリエーション形として、どの旋律にどの楽器を担当させるかを考察。 ○以上の 2 つのパターンから合奏形態を選択させ、グループ作りをさせる。	・演奏形態の工夫 ・演奏グループ作り
	パートごとの練習	・グーグルクラスルームに上げられている各旋律の音源も参考に自主的な練習を行う。	・ソプラノリコーダー アルトリコーダーの運指の確認

1 学 期	「カノン」原曲のCD鑑賞 グループごとの合わせ 「実技テスト」	○全体の演奏を合わせるためには、各パートごとの正確な演奏が大切であることを意図させ、積極的にパート練習に取り組ませる。 ・原曲を鑑賞し、曲全体の雰囲気をつかませる。 ・主題が2小節遅れで演奏されているカノン形式で作曲されている事に着目させる。 ○各パートにちりばめられた旋律の動きに注目し、主旋律を響かせるように工夫させる。 ○全体の響きや各声部のメロディーを聞きながら、自分のパートを演奏することができたか確認させる。 ・強弱の工夫 ・全体テンポの工夫 ・rit. の扱い ・旋律の受け渡しと細かい音符は縦の線を揃える。 ○音楽の三要素である、リズム、メロディー、ハーモニーの構成について注目し、グループごとにオリジナルティ溢れる演奏を目指す。 ・グループごとに全員の前で発表 ・同じ曲でも、演奏楽器のアレンジやテンポの違いにより、演奏内容が変わる事を認識させる。 ○パートの役割や旋律の音の働きを理解し、全体の響きを感じ取りながら表現を工夫して合奏を行う。	カノン形式の理解 カノン形式を生かした演奏 ・発表と他のグループ演奏の鑑賞
-------------	--	--	--

夏休み題	合唱祭「クラス合唱曲の選曲に向けて」 「合唱祭候補曲シート」の提出	・合唱祭準備 ・グーグルクラスルームに配信する「合唱祭候補曲」を聞いて感想と選曲を行う。 ○女声合唱の響きに関心を持たせ、主体的にクラス合唱に取り組みさせる導入とする。	・同じ曲でも編曲者によって曲の内容や雰囲気が変わる等を理解する。 ・クラスの雰囲気や声質を考慮して選曲を考える。
2学期	合唱「曲目決定」 合唱「合唱の役割選出」 「曲作り」 「曲のイメージ作り」 「指揮法の基礎」 「伴奏の注意点」	・クラス合唱として取り組む曲目の決定 ・指揮者、伴奏者、パートリーダーの選出 ○立候補や推薦など、皆で協力して、より良い選出となるような取り組み方を実践させる。 ・パートリーダーを中心に自主的に音が取れるようにする。 ・曲に対するイメージをイラストにして描き、考えさせる。 ・歌詞の意味や歌詞に込められた心情を考える。 ○パートやグループ内で話し合いを行い、どのように歌うかについての考えや意図を持たせる。 ・伴奏の音量の工夫 ○指揮者と伴奏者と合唱の三者の一体が大切であることを理解させる。	・立候補者が出やすい雰囲気や、全体の前で自己表現ができるムード作りに取り組ませる。 ・パートリーダーが指示を出しやすい様に、皆で協力して参加する協調性を養う。 ・歌詞の内容や曲想に興味を持ち、主体的に取り組ませる。 ・拍子の基本的な図形 ・強弱 ・テンポ rit. フェルマタの取り扱い ・歌と伴奏とのバランス

2 学 期	「各パートの合わせ」 「歌の実技テスト」 前半 「指揮者」「伴奏者」の テスト 「振り返り」	・指揮者、伴奏者と共に全体を通す取り組みを行う。 ・楽譜に書かれている様々な記号に着眼して表現方法を考えさせる。 ・歌詞の内容や曲想に応じた発声を心がける。 ・歌詞の内容や曲想に応じた強弱を工夫する。 ・実技テストとして、パート1人ずつで歌う。 ・公開の試験にすることで、他の仲間の演奏を聞き、自分の歌い方の参考にできるようにする。 ・指揮者や伴奏者は、グループの演奏聞いて、状況を把握してこれからの合唱作りの参考となるようにする。 ・指揮や伴奏の技術的な内容の他に全体を指導するという試験を行い、リーダー性を養う。 ・クラスごとの合唱の録画 ・合唱隊形に並ぶ。 ・演奏を録画して、意見の交流を行い、曲のイメージを具体化させる。 ・全体を通しての感想 ・個人としての感想 ・良い点、反省点を考察	・パートごとのイメージを基に全体としてのまとまりや音楽表現を構築する。 ・多声的なパートの役割等の工夫 ・歌詞 ・リズム ・強弱 ・仲間の前で、他のパートにつられず、自分のパートがしっかり歌えるかを認識させる。 ・テストの結果を演奏に生かすことが出来たか認識させる。 ・指揮が振れたか ・伴奏が弾けたか ・前回の歌のテストから、指揮者や伴奏者は全員に適切な指示が出せたか ・より効果的な合唱隊形の工夫 ・表情、姿勢 ・歌詞 ・強弱 ・パートのバランスの考察 ・積極的な意見交流ができるような主体性を持たせる。
-------------	--	--	---

冬 休 み 課 題	振り返りシート」の提出	○合唱表現において、声部の動きや響きに関心を持ち、個人としては、その中でどのように歌うかについて主体的に取り組めるようにする。	・全体を通しての感想 ・個人としての感想 ・以上両面での振り返り
3 学 期	「歌の実技テスト」 後半 「仕上げ」 合唱 卒業式の全体合唱 「夢をあきらめないで」 二部合唱 「仕上げ」 歌唱 卒業式の歌 中学3年間のまとめ	・発声 ・言葉の発音 ・呼吸法 などの技術を身に付ける。 ○声部の役割や全体の響きを工夫しながら、どのように合わせて歌うかについて、考えや、意図を持たせる。 ○仲間と協力して音楽を創り上げる能力を養う。 ○歌詞の内容や曲想を味わい、言葉と旋律とのかかわりやパートの役割と全体の響きとの関わりを理解し、曲にふさわしい表現方法を仲間と一緒に工夫して表情豊かに合唱を行う。 ・合唱祭での経験を基に、音取りやリズム習得において、短時間で仕上げるための合理的な練習方法を工夫させる。 ○卒業式の当該学年として感情豊かに歌い上げる。 ・「君が代」 斉唱	・他パートにつられず、強弱等の工夫ができたかを認識させる。 ・指揮者、伴奏者を中心に、パートごとやクラス全体で、意見の交流を行う。 ・音取りや、全体合わせ等を、主体的に取り組み短時間で成果を上げるための集中力を養う。 ・式典の心構え

3. 学習計画及び評価方法等

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
<知識・技能> 授業で扱った音楽理論や用語・記号を理解し、読譜力が高まった。	定期考査 や提出物
<思考力・判断力・表現力> 表現豊かな演奏に向けて、発声や強弱やリズムなどの工夫ができた。	授業の様子や実技テスト
<主体性・多様性・協働性> 宿題を欠かさずこなす。不明点を解決するための努力をしている。	課題提出状況や、授業内・休み時間の様子で判断。

【提出物状況の評価基準】

- A：期限を守り、答えの丸写しではなく自分の考えで8割以上解答している。
- B：解答はしっかりとできているが期限を守れなかった。
もしくは期限を守れたが空欄が2割以上ある。
- C：「努力を要する」状況と判断される
- D：未提出、未実施